

# 普及活動現地情報

## 「農業現場では、今」



【有田振興局】令和6年度第1回有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会

令和6年4月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

## はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



## < 目 次 >

	頁数
<b>I 海草振興局</b>	<b>1-2</b>
1. 和海地方各農業者団体が総会を開催	
2. 河西農業士会が農業士認定制度について説明会を開催	
3. 「匠の技 伝道師」による温州みかん栽培技術研修会を開催	
<b>II 那賀振興局</b>	<b>3</b>
1. 紀の川市4Hクラブが総会・情報交換会を開催	
2. 「クビアカツヤカミキリ」園地巡回調査を実施	
<b>III 伊都振興局</b>	<b>4-5</b>
1. 令和6年度伊都地方農業士連絡協議会総会、研修会を開催	
2. 重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】 ～農業技術講習会果樹コース（カキの摘蕾等講習会）の開催～	
3. 農業技術講習会野菜コース（夏秋野菜の栽培管理）の開催	
<b>IV 有田振興局</b>	<b>6-7</b>
1. 令和6年度有田地方農業士協議会総会・研修会の開催	
2. 令和6年度第1回有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー 合同研修会を開催	
3. うめ「南高」の摘心処理講習会を開催	
<b>V 日高振興局</b>	<b>8-9</b>
1. 日高地方農業士会令和6年度総代会を開催	
2. 令和6年度日高地方4Hクラブ連絡協議会総会を開催	
3. 重点プロジェクト【クビアカツヤカミキリ対策の強化及び梅の安定 生産】～うめ「南高」の摘心処理現地研修会を開催～	
4. 令和6年度日高地方生活研究グループ連絡協議会総会・研修会を開催	
<b>VI 西牟婁振興局</b>	<b>10</b>
1. 重点プロジェクト【うめの超省力技術と低樹高コンパクト整枝の導入 推進による産地維持】～電動バリカンによる摘心講習会を開催～	
2. 西牟婁地方農業士会連絡協議会が総会・研修会を開催	
<b>VII 東牟婁振興局</b>	<b>11</b>
1. 新宮周辺地場産青果物対策協議会がなすの栽培現地研修会を開催	
2. 東牟婁地方農業士会が総会を開催	

## Ⅷ 農林大学校

12

1. 令和6年度入学式 16名の学生生活スタート
2. 1年生が県内の試験研究機関等で研修

# I 海草振興局

## 1. 和海地方各農業者団体が総会を開催

和海地方では各農業者団体の総会が開催された。

4月4日に下津農業士会（会員14名出席）、10日に紀美野町農業士会（会員7名出席）、15日に和海地方4Hクラブ連絡協議会（クラブ員12名出席）、23日に和海地方農業士会（会員28名出席）、25日に生石加工グループ（会員10名出席）、30日に青年農業経営者協議会（会員4名出席）においてそれぞれ開催され、いずれも令和5年度の活動報告、会計報告、新年度の活動計画などの議案はすべて可決された。

各団体とも昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行してから初めての開催となった。

下津農業士会では元農業士の岩本 治氏から「土壌から見た柑橘栽培」と題して、和海地方農業士会では和歌山地方気象台の杉岡リスクコミュニケーション推進官から「地球温暖化に対応した農業について」と題して、それぞれ研修会が行われた。

5年ぶりに総会後の情報交換会を開催する団体など、コロナ対応の閉塞感から解放されたひとときとなり、各団体の活動がようやく平常化されつつあることが感じられた。



下津農業士会総会



和海地方4Hクラブ総会



和海地方農業士会総会



生石加工グループ総会

## 2. 河西農業士会が農業士認定制度について説明会を開催

4月17日、河西農業士会（会長：増田恵一郎氏）は、元農業士の後継者等を対象に、中州出荷組合で説明会を開催した。当日は、会員8名と地区内の農業者8名が出席した。

会長から昨年度実施した研修会や県外視察について、副会長から農業士の意義やメリットについて説明があった。また、会員から、「横のつながりが出来る」、「意見を出し合うことで地区全体の活性化につながる」、「県外研修は自身の勉強になる」等の意見もあった。参加者からは、研修会の目的や内容について質問があり、地区内の農業者同士で情報交換するよい機会となった。

参加者の中から、農業士が新たに生まれることを期待する。



会員から参加者に説明

## 3. 「匠の技 伝道師」による温州みかん栽培技術研修会を開催

4月30日、海南市下津町内の温州みかん園地において、「匠の技 伝道師」橋詰 孝氏による栽培技術研修会を開催し、新規就農者を含む生産者14名の参加があった。

本研修会は、令和4年度から主要な作業時期別に開催しており、今回は昨年2月にせん定研修会を行った園地において、花の付き方の確認と今後の管理について研修を実施した。はじめに、農業水産振興課の萩平普及指導員から昨年の生育概況及び今年の開花状況について説明を行ったあと、橋詰氏から園地の樹を用いて説明が行われた。

橋詰氏からは、「花を着けすぎないせん定を行うのが良い。着いた花をとめるため、この後は液肥を散布して新芽の緑化を促進させることが大事」との話があった。また、近隣にある研修生の園地へ移動し、樹の状況を確認しながら意見交換も行った。研修生からは、摘蕾や肥料の散布時期等について積極的に質問があがり、活発な研修会となった。



花の着き方の解説

## Ⅱ 那賀振興局

### 1. 紀の川市4Hクラブが総会・情報交換会を開催

4月12日、那賀振興局において紀の川市4Hクラブ（会長：米田基人氏）令和6年度総会が開催され、会員12名が出席した。議案は全て原案どおり承認されるとともに、役員改選が行われ、新会長に宮村康平氏が就任した。

総会終了後に今年度の活動計画について協議を行い、先進地研修・勉強会の実施や県4Hクラブ活動への参加などを展開することを確認した。

また、同日行われた情報交換会では、会員13名が参加、今年度の活動計画に関して、参加者から研修内容等に多くの提案が出された。出席者は互いの近況報告や情報共有をする良い機会となった。



総会

### 2. 「クビアカツヤカミキリ」園地巡回調査を実施

那賀地方病虫害防除対策協議会（会長：中島康晴氏、管内関係機関で構成）では、4月23～24日に「クビアカツヤカミキリ」の園地巡回調査を行った。

本年は、過去被害が発生した園地周辺を重点的に調査するため、管内6地区の被害園地を中心に半径1kmの悉皆調査を行った。延べ23名が8班体制で255園地のもも、すもも、うめを調査したところ、10園地でもも6本、うめ4本の被害が確認され、うち4園地で新たに被害を確認した。夏期の一斉防除や早期発見・早期捕殺による防除対策が一定の効果を発揮しているものの、徐々にではあるが被害が拡大傾向にある結果となった。

このため、農業者のみならず、地域全体の警戒意識を高めるため、5月にはJA紀の里組合員向けに、6月には紀の川市、岩出市の全世帯を対象に啓発チラシの配布を行う。



うめ園地での調査

### Ⅲ 伊都振興局

#### 1. 令和6年度伊都地方農業士連絡協議会総会、研修会を開催

4月16日、伊都地方農業士連絡協議会（会長：辻 重光氏）は、JA紀北かわかみかつらぎ支店にて総会及び研修会を開催した。来賓挨拶に続き定年解除になった農業士への記念品贈呈、また新たに認定された農業士への認定証交付を行い、それぞれ今後の抱負を述べていただいた。総会では会員17名出席の下、全ての議題が原案どおり承認された。

研修会では、和歌山県農業共済組合北部支所の松本課長を講師に招き、収入保険制度のしくみ、メリットなどについて、分かりやすく説明いただいた。近年、被害規模の大きい自然災害が多くなっているため、会員らはいざという時の備えとして熱心に聞き入っていた。



総会の様子



農業士認定証交付

#### 2. 重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】

##### ～農業技術講習会果樹コース（かきの摘蕾等講習会）の開催～

4月19日、農業水産振興課では、就農意欲があり基礎技術を習得したい人への技術・経営力向上のため、果樹（かき）の栽培技術講習会を開催し、6名が受講した。

今回は、初夏の開花期までの主な作業であるかきの摘蕾等についての講習会を実施した。

はじめに、伊都振興局で当課森口普及指導員が、かきの歴史、主要品種の導入、結果習性、摘蕾方法について説明し、続いて浅井普及指導員が、かきの病虫害防除および農作業安全について説明した。

その後、九度山町入郷の藤田普及協力委員のかき園に移動し、摘蕾の実演を行いながら説明し、受講者全員で「刀根早生」の摘蕾を行った。受講者からは、残す蕾の選び方、病虫害防除のタイミングや土壌改良方法等についての質問があった。

当課では、引き続き講習会（果樹）を12月まで合計5回実施し、栽培指導を行っていく。



座学の様子



摘蕾方法の説明

### 3. 農業技術講習会野菜コース（夏秋野菜の栽培管理）の開催

4月26日、農業水産振興課では、就農意欲があり基礎技術の習得したい人への技術・経営力向上のため、夏秋野菜の栽培技術講習会を伊都振興局で開催し、7名が受講した。

はじめに、当課の山田主査から、病虫害防除の基礎を説明し、農薬取締法の遵守及び農薬の防除効果等から使用する農薬の選び方、農薬の保管や散布方法等の取り扱いについて指導を行った。次に、主に夏や秋に収穫できる野菜の栽培管理として、トマト、なす、かぼちゃ、スイートコーン、オクラ等を中心に各品目別の特徴、管理作業、主要病虫害防除等について講義を行った。その他、農作業安全として、農業機械や道具の取り扱いに関する注意点について説明した。

受講者からはスイートコーンの害虫防除方法や残留農薬の検査、外来害虫の侵入経路等についての質問があった。

当課では、引き続き講習会（野菜）を12月まで計3回実施し、栽培指導を行っていく。



講習会の様子

## IV 有田振興局

### 1. 令和6年度有田地方農業士協議会総会・研修会の開催

4月16日、鮎茶屋において、有田地方農業士協議会(会長:武内啓和氏)が総会及び研修会を開催した。当日は各市町の農業士と関係者の計43名が出席し、令和5年度事業経過報告と収支決算報告、令和6年度事業計画案と収支予算案等が原案どおり承認された。

研修会では、有田地方4Hクラブの小川氏より「柑橘栽培におけるドローン防除の可能性について」という題目でご講演いただいた。また、果樹試験場の中地栽培部長、直川副主査研究員、下村副主査研究員より「温州ミカンの水分管理、黒点病の防除対策、カイガラムシ類の防除対策」の3題について講演があった。参加者らは熱心に聞き入り、講演後や研修会終了後も質問が絶えなかった。

かんきつ栽培や病害虫防除について、もっと学びたいとの意見が出席者から挙がっており、今後も4Hクラブや果樹試験場と連携し、研修の機会を設けたいと考えている。



武内会長のあいさつ



研修会 4Hクラブ小川氏の講演

### 2. 令和6年度第1回有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー 合同研修会を開催

4月24日、農業水産振興課は果樹試験場において有田管内で5年以内に就農した農業者と女性農業者を対象とした合同研修会を開催し、21名が参加した。第1部は果樹試験場の研究員からカンキツの病害虫対策について、第2部は鳥獣害対策についての講義があり、第3部はカンキツの苗木の植え付けと管理方法について、受講者が実際に苗木を植え付け、管理方法の実習を行った。

受講者らは4班に分かれ、宮川早生2年生の苗木を果樹試験場ほ場に植え付け、管理作業を行った。植え付けの穴の深さや盛り土の仕方、かん水、整枝、芽の整理などの1つ1つの作業について、受講者同士で意見を交わしながら賑やかに作業を進めていた。

受講者からは「講師の実演により、重要なポイントが分かった」、また「他の受講生とのやり方の違いを知り、自分の考えの間違ひにも気づき、大変勉強になった」との感想が聞かれた。



講師の指導のもと苗木の整枝を行う受講者

### 3. うめ「南高」の摘心処理講習会を開催

4月18日、JAありだウメ部会（会長：清水康伸氏）が農業水産振興課協力の下、有田川町中井原のうめ園で新梢の摘心処理の講習会を開催し、会員及びJAありだ営農指導員16名が出席した。

摘心処理は4～5月に2回、約20cmに伸長した新梢を10cm程度残して摘心する作業であり、枝の増加が図られ増収効果が期待できる。また、冬季のせん定作業が省力できる技術でもある。城村普及指導員が講師を務め、処理4年目の樹を対象に、電動バリカンを用いた摘心の実演を行った。

令和6年産のうめは県下で着果数が少なく、本処理園も例年より少ないが、摘心の効果もあり慣行樹より着果数は多い状況である。JAありだウメ部会員の中にはすでに電動バリカンを購入し摘心処理を実践する部会員があり、また電動バリカンの購入を検討している会部員もいることから、地域に技術が浸透しつつある。

当課では今後もJAありだと連携して、うめの生産安定につながる摘心処理技術の導入推進に向けて普及活動に取り組んでいく。



電動バリカンを用いた摘心の実演

### 4. 令和6年度有田地方4Hクラブ連絡協議会総代会及び技術交換大会を開催

4月23日、有田振興局において令和6年度有田地方4Hクラブ連絡協議会総代会が開催され、各市町から4Hクラブ員14名が出席した。

当日の総代会において、令和5年度事業経過報告と収支決算報告、令和6年度事業計画（案）と収支予算（案）が原案どおり承認されるとともに、役員改選が行われ、新会長に南広4Hクラブの栗山陽一朗氏が就任した。

総代会終了後に開催された技術交換大会では、クラブ員が農業分野から出題されたペーパーテストと実物鑑定に挑戦し、日頃の活動で身につけた知識を競い合った。

採点の結果、団体の部では有田川町4Hクラブ、個人の部では南広4Hクラブの鉢内康太氏が1位に輝いた。

本年度の事業計画案としてスポーツ交流会や研修会などが出されており、農業水産振興課では、クラブ員の意見を踏まえ、今年度の活動支援を行っていく予定である。



総代会の様子



技術交換大会で実物鑑定に取り組むクラブ員

## V 日高振興局

### 1. 日高地方農業士会令和 6 年度総代会を開催

4月14日、日高地方農業士会（会長：清水俊夫氏）は令和6年度総代会を開催し、会員28名の出席があった。議事に入る前に、令和5年度新規認定農業士の紹介を行い、認定を更新した方を除いて新たに5名が入会となった。

総代会終了後、話題提供として農業水産振興課の各担当から「経営継承応援資金」、「強い経営体育成支援事業」などの県単事業、令和6年度から新たに取る普及指導計画の概要について説明を行った。

出席者からは、補助対象機器や申請期限など、補助事業の活用に向けた質問のほか、補助対象の拡大や要件緩和の要望なども出された。



新規認定者の紹介



清水会長の挨拶

### 2. 令和 6 年度日高地方 4 H クラブ 連絡協議会 総会を開催

4月23日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：尾曾 匠氏）は、令和6年度総会を開催し、会員17名の出席があった。

議案審議では、令和5年度事業報告、収支決算報告及び令和6年度事業計画（案）、収支予算（案）ともに原案のとおり承認された。また、新会長にみなべ梅郷クラブの大野寿也氏、副会長に御坊市4Hクラブ連絡協議会の岡 有輝氏、会計には印南町4Hクラブの村上弘樹氏が選出されるなど、役員改選が行われた。

総会終了後、当課担当から各種補助事業をはじめとする、県施策について説明を行ったところ、特に経営継承応援資金について関心が集まった。



4 H クラブ 綱領の唱和



新役員 の挨拶

### 3. 重点プロジェクト【クビアカツヤカミキリ対策の強化及び梅の安定生産】～うめ「南高」の摘心処理現地研修会を開催～

当課では、JA紀州、県うめ研究所等と連携し、うめ「南高」の低樹高化技術（カットバック＋摘心処理）の導入による青梅生産性の向上及び省力化の推進に取り組んでいる。

4月24日と25日、生産者を対象とした摘心処理（1次）の現地研修会を日高川町とみなべ町の2地区で開催した（24日：参加者6名、25日：参加者11名）。

行森普及指導員が充電式電動バリカンによる摘心処理の方法を実演指導し、参加者からは「簡単な処理で収量が増えるなら試してみたい」といった意見が多く聞かれた。

今後は、摘心処理（2次）講習会を5月下旬に、カットバック処理及びせん定講習会を11月下旬頃に開催する予定である。



摘心処理の実演（日高川町）

### 4. 令和6年度日高地方生活研究グループ連絡協議会総会・研修会を開催

4月30日、日高地方生活研究グループ連絡協議会（会長：後藤明子氏）は令和6年度総会及び研修会を開催し、会員及び関係者を含め20名の出席があった。

総会では、令和5年度の事業経過報告・収支決算報告・会計監査報告と令和6年度事業計画（案）、収支予算（案）及び役員改選が審議され、すべて承認された。

総会終了後の研修会では、アロマワックスサシェづくりを行った。講師の垣森千晶氏から説明を聞いた後、各々飾り付けの花や型を選び、溶かしたろうへ香り付けをして作成した。

会員からは、「可愛くできたので嬉しい」などの感想があり、楽しい研修会となった。



後藤会長の挨拶



作品を持って記念撮影

## VI 西牟婁振興局

### 1. 重点プロジェクト【うめの超省力技術と低樹高コンパクト整枝の導入推進による産地維持】 ～電動バリカンによる摘心講習会を開催～

農業水産振興課は、うめ「南高」の着果安定及び作業省力化を目的に、4月18日田辺市新庄町、25日上富田町岡、26日田辺市上芳養にて摘心処理講習会を開催した。生産者38名とJA紀南営農指導員6名、普及指導員4名が参加した。

摘心処理は、処理年数が浅めの樹や着果不良樹では5月下旬にも2回目の追加処理が必要である。講習会では充電式電動バリカンを用いて省力的に摘心処理を行えることを紹介・実演した。電動バリカンにより効率よく処理するための留意点として、水平気味に一振りですぐ摘心処理ができるよう、垂主枝等の背面には立枝を少なくすることをポイントとして伝えた。参加者からは「電動バリカンを使うと、効率的に摘心処理ができそうだ。さっそく、導入してみたい」との感想があった。

今後は、徒長枝の発生を極力少なくする対策として、収穫後の夏季摘心処理を追加導入し、秋季せん定作業の軽減効果を確認していく。



バリカン処理の実演

### 2. 西牟婁地方農業士会連絡協議会が総会・研修会を開催

4月18日、西牟婁地方農業士会連絡協議会（会長：家高 勇氏）は、紀南文化会館において、総会並びに研修会を開催し、会員及び行政関係者等約50名が出席した。

研修会は、3月末に定年となった元指導農業士の谷口文治氏から、これまで自身が取り組んできた農業経営の紹介を交えての退任の挨拶があった。

また、うめ研究所の綱木研究員から「開花前の温度条件がウメ花器および結実に及ぼす影響」について、裏垣研究員から「クビアカツヤカミキリの生態と被害状況」についての講演があった。

会員からは、「温暖化でも不完全花を少なくするにはどうしたらよいか」や「クビアカツヤカミキリはどの様な木につきやすいのか」等の質問があり、熱心に聴き入っていた。



会長挨拶

## Ⅶ 東牟婁振興局

### 1. 新宮周辺地場産青果物対策協議会がなすの栽培現地研修会を開催

4月16日、新宮周辺地場産青果物対策協議会（会長：小田三郎氏）は、なすの現地研修会を開催した。くろしおナス組合員、市場関係者、JAみくまの職員、農業水産振興課併せて10名の出席があった。

那智勝浦町の園地で、当協議会員はなすの生育状況を確認した。確認後は、JAみくまの営農経営センターで松本安弘氏（くろしおナス組合長）が、新規栽培者になす栽培での土づくりから定植、収穫における栽培方法等を説明した。その際、新規栽培者から枝の誘引方法や台風対策、なす収穫後の農場の活用など多くの質疑応答があり、有意義な研修会となった。

また、坂井普及指導員から、防除暦例の変更点についての説明を行った。

当課では、関係機関とともに生産量を維持するため、新規なす生産者の確保に取り組んでいく。



研修会（JAみくまの経営支援センター）

### 2. 東牟婁地方農業士会が総会を開催

4月24日、令和6年度東牟婁地方農業士会（会長：杉浦 仁氏）は休暇村南紀勝浦において、会員及び東牟婁振興局農業水産振興課職員17名が出席のもと、総会を開催した。

杉浦会長の挨拶と当部の伊藤副部長の祝辞の後、令和5年度の活動報告、会計報告、新年度の活動計画などの議案が上がり、全て可決された。

当課の村畑普及指導員は、「経営継承応援資金」、「和歌山県青年リーダー育成支援事業」について話題提供した。

総会終了後、農業士認定式を開催、伊藤副部長から新たに認定された指導農業士2名、地域農業士1名に認定書を交付した。



総会



農業士認定式

## Ⅷ 農林大学校

### 1. 令和6年度入学式 16名の学生生活スタート

4月5日に入学式を行い、園芸学科11名、アグリビジネス学科5名の計16名が入学した。式辞で川村校長は「これから2年間、本校での様々な学びや学生生活を通じて、農業に関する専門知識や技術だけでなく社会人として求められる能力を身につけ、本県農業を担うリーダーに成長してほしい。「学ぶ姿勢」「社会や人との円滑な関係の構築」「目標を持つ」の3点を心がけて頑張ってください」と新入生を激励した。

続いて、新入生代表の東本滉平さんが「農業の基礎知識や技術、経営能力の習得やさまざまな資格取得に努力したい。学んだ知識や技術を実践し、物事を的確に判断・対応する力や体力、将来への自信をつけたい」と宣誓した。

今後、学生は農業に関する専門的な講義や実習、先進農家や試験場などで研修を行い、農家の技術や先端技術について学習を行っていく。



川村校長の式辞



新入生代表の宣誓

### 2. 1年生が県内の試験研究機関等で研修

4月18日から19日にかけて、1年生（17名）が農林業に関する最新の研究内容や事業内容について学ぶため、農林業関係の試験研究機関等（果樹試験場かき・もも研究所、農業試験場、林業試験場、農林大学校林業研修部、果樹試験場うめ研究所、農業試験場暖地園芸センター、農林大学校就農支援センター、果樹試験場）とプラム食品株式会社を訪問した。

研修先では、現在取り組んでいる研究内容や事業内容等について説明を受け、その後、ほ場や施設の見学を行った。学生は熱心にメモを取り、「果樹の品種登録にはなぜ時間がかかるのか」など、多くの質問を行っていた。ほ場見学では果樹のジョイント栽培や試験場の品種保存園に興味を持つ学生が多く、各所で写真を撮影していた。

まだ入学して間もないが、最新技術に関する学習だけでなく、2日間寝食を共に過ごすことで、学生同士の親睦や連帯感が深まり、有意義な研修旅行となった。



栽培ほ場の見学  
(うめ研究所)



育種ほ場の見学  
(暖地園芸センター)

### 普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489